

働き方改革、生産性向上へ前進

東海地区コンクリート圧送組合が10周年

東海地区コンクリート圧送有限責任事業組合（長谷川員典理事長）は13日、名古屋市内で組合設立10周年祝賀会を開いた。長谷川理事長は「働き方改革や生産性向上など取り組むべき課題は多い。全庄連とともにまい進していきたい」と決意を新たにした。141人が参加した写真。長谷川理事長が「組合

員の理解と協力により10周年を迎えることができた。今後も力の続く限り頑張りたい」と次の10年へ力強く抱負を述べた。後、来賓として出席した三重県の鈴木英敬知事らが祝辞を述べた。続いて2月24日に行われた全庄連第1回全国圧送技術大会で組織委員会として貢献した近未来コンクリート研究会代表の十河茂幸氏ら5人に記念品を贈呈した。また、組合員表彰では、中央建設社長の長谷川恭裕氏をはじめ11社を表彰した。同組合は、2008年6月3日に愛知・岐阜・三重の東海3県の圧送工事業者が安全と品質



の確保や環境配慮を目的に設立した。これまでに圧送受発注管理システムの構築や全組合員のポンプ車にGPSを導入するなど、先進的な改革を進めてきた。17年6月には、ゼネコンの技術者ら240人を対象に「施工管理者のための圧送計画の第一歩」と題した技術講習会を開いた。